

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業
国際交流拠点形成事業)

事業名：行政交流都市提携20周年・福岡釜山友情年
「韓国モダンアートの波－釜山市立美術館
コレクション展」

事業者名：釜山市立美術館コレクション展実行委員会
(中核館：福岡アジア美術館)

住所：福岡市博多区下川端町3番1号

TEL：092(263)1100

FAX：092(263)1105

HPアドレス：<http://faam.city.fukuoka.lg.jp>



連携事業者名：釜山市立美術館

会場：福岡アジア美術館 企画ギャラリー

事業期間：平成22年 6月17日 ～ 平成23年 1月31日

1. 館の使命と本事業の関係

本事業は、釜山市と福岡市の行政交流都市提携20周年を記念し、平成20年に締結した「釜山市立美術館と福岡アジア美術館の相互協力の協定」に基づき開催する展覧会である。

当館は美術分野における福岡とアジアとの交流拠点を目指して誕生した美術館であり、アジアの近現代美術を系統的に収集・展示することで、既成の「美術」の概念を問い直すことを使命としている。

本事業は、当館の使命に基づき、福岡と釜山のより具体的かつ継続性を視野にいたれた美術の分野における相互交流を行うものである。

2. 企画内容

①事業目的

釜山市、福岡市の所蔵品の相互展示、学芸員の交流や所蔵作品・資料の相互利用を促し、将来的に共同による調査・研究、展覧会の巡回、所蔵品交換などの持続的・発展的な交流を行うことを目的としている。

②事業概要

- (1)「韓国モダンアートの波－釜山市立美術館コレクション」展
- (2)釜山市立美術館学芸員によるギャラリートーク
- (3)特別講演会「韓国の近現代美術史－釜山ゆかりの作家を中心に」
- (4)釜山－福岡現代アート座談会「釜山現代アートシーンと福岡－釜山の海を越えた美術交流」

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

○「韓国モダンアートの波－釜山市立美術館コレクション」展

9月18日（土）～平成22年11月3日（月・祝）

1940年代から現在までの、釜山を中心とした韓国美術の流れを76点の作品で歴史的にたどる展覧会。地方都市である釜山美術の特徴を示したこと、また韓国美術史を通史的に概観した点において意義ある展覧会であった。



○釜山市立美術館学芸員によるギャラリートーク

9月18日（土）10:00～10:45

釜山市立美術館の本展担当学芸員チョ・ウンジョン氏による作品解説。開会式に引き続いて行だったので、多くの人に見所を理解してもらった。



○特別講演会「韓国の近現代美術史－釜山ゆかりの作家を中心に」

9月18日（土）13:30～15:30

釜山市立美術館の学芸員イ・ジンチョル氏による釜山の作家を中心とした韓国の近現代美術史入門講座。展覧会出品作品をより深く、歴史的な流れに位置づけて理解することができた。



○釜山－福岡現代アート座談会「釜山の現代アートシーンと福岡・釜山の海を越えた美術交流」

10月2日（土）16:00～18:00

釜山で活躍する現代アート・スペースの代表3人と釜山のアートシーンに長く関わってきた学芸員1人による座談会。福岡のアート・スペースの関係者や作家たちが聴衆として集まり、釜山と福岡のローカルな美術関係者をつなぐきっかけとなった。



(2) 参加者の数

参加者人数	延べ	6,006人
内 訳：展覧会		5,754人
ギャラリートーク		108人
講演会		52人
座談会		92人

(3) 事業により作成した印刷物等

ポスター（B2）1,400枚、チラシ（A4）40,000枚、関連イベントチラシ（A4）5,000枚、観覧券10,000枚、開会式案内状・封筒 700セット

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事

- ・ 民団新聞 8月25日
「解放後から現代まで－韓国モダンアート展」
- ・ 東洋経済日報 9月10日
黒田雷児（福岡アジア美術館学芸員）「釜山－巨大都市が生み出す美術力」
- ・ 西日本新聞 9月12日
五十嵐理奈（同）「ミュージアムめぐり 102 学芸員のいちおし－人と人の交流に焦点」
- ・ 日本経済新聞（夕刊）9月16日
「韓国近現代アートに光－戦前日本の影響も」
- ・ 新美術新聞 9月21日
黒田雷児（同）「通信 JtoA アジアへ－釜山美術の光と影『地方美術』は可能か」
- ・ 国際新聞（釜山） 9月28日
シム・ウヒョン「シム・ウヒョンの九州、文化レポート〈11〉海を越える芸術の波 1－釜山・福岡美術館、所蔵品交換展 韓国モダンアートの波展」
- ・ 国際新聞（釜山） 10月5日
シム・ウヒョン「シム・ウヒョンの九州、文化レポート〈12〉海を越える芸術の波 2－釜山・福岡『美術ネットワーク』への期待高まる」
- ・ 西日本新聞（夕刊）10月9日
「韓国アートの変遷と今」
- ・ 読売新聞（夕刊）10月19日
白石知子「民主化運動後 釜山で独自に展開」
- ・ 西日本新聞（朝刊）10月20日
五十嵐理奈（同）「韓国アートの今 釜山市立美術館展から（上）－庶民へのまなざし」
- ・ 西日本新聞（朝刊）10月22日
五十嵐理奈（同）「韓国アートの今 釜山市立美術館展から（中）－『日常』に切り込む」
- ・ 西日本新聞（朝刊）10月23日
五十嵐理奈（同）「韓国アートの今 釜山市立美術館展から（下）－華やかな光の下で」

○テレビ、関連誌等

- ・ 10月8日～14日 J:COM チャンネル福岡 「Home town 福岡－釜山・福岡現代アート座談会『釜山の現代アートシーンと福岡－釜山の海を越えた美術交流』」

4. 事業の成果及び今後の課題

成果としては、釜山市立美術館と当館との美術交流が促進されたこと。また、多くの福岡市民が行政交流都市である釜山の美術に触れる機会となったことがあげられる。さらに、首都ではなく地方都市である釜山の美術を歴史的に紹介することができたことは同じ地方都市として重要な取組だったと考えられる。また、作品の展示だけではなく、講演会や座談会を通して人間の交流をより深められたことは、今後の取組みを考える上でも重要な点であった。

今後の課題としては、釜山市立美術館と当館が今後は具体的にどのような交流を行うのか、美術館同士ではなく釜山市と福岡市の作家や美術関係者がより深い交流を継続的に進めて行くことができるか等が考えられる。

来場者アンケート結果(1,136 件)

①展覧会の内容

	最良	良	普通	やや不良	不良
人数(人)	385	585	147	15	4
%	33.9	51.5	12.9	1.3	0.4

②会場の雰囲気

	最良	良	普通	やや不良	不良
人数(人)	338	568	208	10	4
%	30.0	50.4	18.4	0.9	0.4

③年齢

	10代以下	10歳代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数(人)	17	23	255	218	203	200	151	55
%	1.5	7.0	22.7	19.4	18.1	17.8	13.5	4.9

④性別

	男	女
人数(人)	375	714
%	34.4	65.6

⑤居住地

	市内	県内	県外	国外
人数(人)	500	282	321	7
%	45.0	25.4	28.9	0.6